

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営				
1.理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人間性を尊重し、地域の中で、その人らしく生活できるように日々の介護にあたっている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングやカンファレンス等で、いろんな思いを話し合い、具体的な形にして、お互いが共有できるように、又実践していけるように取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念をホームの見やすい所に表示して、日常的に生かせるようにし、家族や地域の人にもわかりやすいように、浸透を図っている。		地域に向けての働きかけを工夫している。
2.地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの立地条件からも隣近所とのつきあいはむずかしいが、交流の機会があれば、積極的に声をかけるよう心がけている。隣接する託児所の子供との交流は出来ている。		奥まった場所にあるため、通りに看板を設置している。運営推進会議での働きかけ。近隣の小、中学校に働きかけ、体験学習にきてもらいたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当法人施設との合同行事(デイサービスとの秋祭り)に参加したりボランティア受け入れで敬老会に招いて交流を図ったりしているが、地域住民の方との交流機会(盆踊りに参加した)が少ない働きかけを工夫している。		町の行事、文化祭、祭事などの情報収集をして、参加できるようにしている。陶芸展示会を開催することによって、交流を深める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	当法人のデイサービスとの交流、合同での行事などの協力的な関係が出来ている他、地域の行事等にボランティアとして参加、取り組んでいる。高齢者の一人暮らしの方の定期的訪問。		
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を理解する為にも、スタッフ一人ひとりに、自己評価をすべて記述してもらい、それを皆で確認しあっている。結果については評価を受け止め、改善に向け話し合い、意識をもって取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。入居者・家族・行政職員・民生委員・地区の区長・看護部長が参加。状況報告や行事の案内。月毎に決めたテーマ等で報告や意見を聞き、日々の介護に反映できるように話し合っている。地域の方々と交流を深める為にも、司会、記録をスタッフ全員で輪番制をとっている。		太刀洗病院の相談員、事務長も参加。町職員から情報を収集し意見等をもらっている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	常日頃、気軽に相談できる体制にある。事業所の実情など相談、ケアサービスの取り組みについても報告している。町のボランティア活動等で機会をつくり、連携を深めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会、セミナーなど機会があれば参加し、理解を深めるようにしている。入居申し込み時には入居者家族にも説明し、ホーム内にも説明文を掲示している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で話し合ったり、勉強会や資料等で理解を深めるようにしている。抑制にあたる施設も夜間以外はしていない。入居者の居場所を把握できるよう気を配っている。虐待等(言葉での暴言)見過ごされることがないように、もしあれば、その場で注意、話し合いの場を持っている。		ストレス、悩みをためないよう、スタッフ間、気軽に話せる関係を作っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだ後、解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>家族、本人の意向をしっかりと聞き、十分な説明をして、少しでも不安を解消していただき、理解納得していただけたうえで、契約を行っている。前もって希望者を訪問して話を聞く事も大切にしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の声を大切にし、不満、苦情を訴えられる雰囲気作りと、ゆっくりと傾聴する時間が持てるよう努力している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月に1回ホーム便りを出し、スナップ写真入りで状況報告をしている。家族来訪時に生活ぶりの報告や出納長で金銭管理も行い、報告している。日常生活、健康状態に変化があればその都度、連絡報告を行なっている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用しやすいように玄関に意見箱を設置しているが、日頃から家族から何でも言い易い関係づくり、信頼関係に気をつけている。意見や苦情は事業所がよくなる為だと受け止め、職員間で話し合い、迅速な対応に心掛けている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のミーティング、問題が生じた時等、機会あるごとにミーティングを開き、意見、提案を自由に出し、話し合っている。又反映できる工夫をしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務調整に関しては状況の変化に応じて、要望に対して話し合い、柔軟な対応ができています。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新しい職員が勤務した場合は、3ヶ月間しっかりと日勤帯で馴染みの関係を作り、夜勤は4ヶ月目から勤務につくようにしている。病気や健康面での不安から、入院された入居者にも、お見舞いなど心がけている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用必要時は、職員の知人等に声かけを行っている。性別、年齢等に制限は一切していない。介護の重要性、グループホームの役目等を認識してもらう為に、研修等に声かけてして、参加している。</p>		<p>男性職員の採用も随時行う予定。定期的人事異動も考えて、ストレス解消に役立てたい。個人意識の差をかなりあるので、雑誌等を読んで知識をつけ、体験して、研修、フィードバックへ継げたい。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権教育等、行政で行われているが、代表が出席して資料を読む程度。</p>		<p>年1回は全職員が研修受けられるように計画、実行する。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>自発的にスキルアップをして行こうと努力している。研究発表、年2回行ない、思考する過程を文章にまとめている。</p>		<p>個人差があるので、基準作りは必要である。期間を決めて、到達出来るプログラムを作成したい。(1年目、2年目、3年目プログラム)</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>介護部会等にも積極的に参加している。部会での情報も確実に伝達されている。サービスの視点に問題発見がある時には、カンファレンスを通して統一。</p>		<p>当院で不足しているサービス等を明確に打ち出し、機関を決定し、充足すべきと考える。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>情報を共有し、気持ちを傾聴している。運営推進会議等にて、職員の頑張りのアピール等もしている。</p>		<p>積極的に管理者と時間を設ける必要を感じている。個人差があり、直接意見を述べる場面設定が必要。</p>
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>介護記録等を通じて、職員の状況等を把握している。思考しなければ記録には記入出来ない。</p>		<p>機会ある事に面接等を行い、認めていく事が必要である。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ホームの入居希望者を訪問するなど、話しをする機会を持ち、様々な思いを傾聴し、受け止める努力をしている。傍に寄り添い、安心して生活していただけるよう、その人らしさを気づき信頼関係を保ち、話を傾聴するようにしている。</p>	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ホームの理念、現況などを説明し、困ってある事、不安に思っている事、家族の思い、希望等を受け止める努力をしている。本人が安心して、納得されたうえで利用される事が一番である。</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>居宅事業の担当者にも話し合い、相談を行い、最良の方向性を検討している。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>併設の病院から入居される方、外部から入居される方、それぞれ家族や担当スタッフと連絡を取り合い、相談しながら見学やお茶への誘いなど利用していただき、様子を見たりしながら事前に状態を把握し、馴染めるよう工夫している。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>人生の先輩である事を念頭において、尊敬の気持ちを持ち、常に目線をあわせ、対等であるという事を意識し、残存機能を引きだし、喜怒哀楽を共にし、いろんなことを学び、支えあう関係を築いている。又一緒に身体を動かし、会話を多く持ち、一緒に過ごす工夫をして対応している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時など入居者の生活歴や家族の思いなど、充分に話しを聞き、(本人の家族関係も様々ではあるが)よりよいケアへと生かしていけるよう共に本人を支えていく関係を築いている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	本人の家族に対する思いなど、常に家族に連絡をとりながら、機会あるごとに報告している。面会時には、本人との時間を大切にし、心のかようよりよい関係ができるよう支援している。		運営推進会議やお誕生会、陶芸作品展など家族の参加を呼びかけている。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	家族、知人、思い出の場所(実家)などの話をされる時は、ゆっくり話を傾聴し、家族の方とも相談しながら面会、外出の支援をしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わら合い、支え合えるように努めている	入居者の性格、相性等をそれぞれ把握し、孤立する事がないよう心がけているが、やさしい声かけ、いたわり ささえあっている関係が多くみられ、その関係を支援している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院による退居など様々であるが、本人に面会に行ったり家族からの相談を受け入れ、再入居の支援を行う場合もある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に本人、家族に希望を尋ねたり、生活歴、性格、個性についての把握に努めている。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居、前後、顔馴染みの関係を作っていくなかで、本人、家族とのコミュニケーションを多く取りながら、その人をどまぐ機関からも多くの情報を把握している。</p>	<p>利用者に関する基本的な情報を収集し、病院ソーシャルワーカーよりの情報提供を得ている。</p>
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎日の介護記録を通じて、日常生活、心身状態を把握し、又職員間での情報交換、共有する事によって把握する様に努めている。</p>	<p>リハビリへ行かれる方もあるが、心身状態をよく把握し、無理のないようにしている。</p>
m			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の思いや意見を聞き、状態の把握に努め、職員間では情報を共有化し、各々の状態や希望を反映し、具体的に介護計画を作成している。</p>	<p>アセスメントツールを書くようし、利用者ニーズにそった介護計画が作成できる。</p>
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員からの情報を共有化し、3ヶ月に1回見直しを行っている。状態が変化した時には、その都度、見直しを行い、家族へも説明し、随時対応している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>基本的な生活記録をし、体温表、申し送りノートなどを併用している。勤務についた時、記録には必ず目を通すようにし、情報の共有に努めている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>状況に応じて、母体病院受診、外部科受診の支援をしている。</p>		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関などと協力しながら支援している</p>	<p>ボランティア活動に参加し、情報交換など行い、協力を呼びかけている。消防署には避難訓練の実施、警察署にもお年寄りの安否の見守り等をお願いしている。地域の人々に積極的に挨拶し支援を促している。</p>		
43	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>不都合、問題点など検討すべき事があれば、近隣施設やサービス事業者、ケアマネジャーなどと連絡をとり情報交換している。</p>		
44	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>健康福祉課、地域包括支援センターには運営推進会議に毎回出席していただいております。事業所だけでは解決困難なことに相談解決を図っている。</p>		
45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>等法人の医療機関に2週間に1回、定期健診しているが、異常時にはその都度受診している。必要に応じて、家族の了解を得て、歯科受診を受けている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	相談、受診できる医療機関がある。受診時、職員が同行し、指示や助言がもらえる時間帯の配慮もできる。		
47 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当法人である病院の看護部長が定期的に来荘し、日常の健康管理等相談を受けている。他職員に看護職員がおり、相談、介護にあたっている。		夜間帯での緊急時の場合では、病棟へ連絡し、指示を受けられる事ができ、場合によっては、医師の受診もできる。
48 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は病棟との情報交換で状態把握に努め、家族との連携もあって、早期退院できるよう支援している。		
49 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、契約時に看取りに関する説明、同意をいただいている。重度化、終末期に向けた意向を伺い、本人、家族、職員、主治医にて、方針を共有しており、話し合いの場をもっている。		
50 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期の利用者がよりよく日々を送っていただく為に、主治医と共に家族、職員と今後の変化に備えての話し合い、連絡を密に行っている。		
51 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退院時にはサマリー等を活用し、情報交換を行い、医療機関とも相談しながら、ダメージを少なくする努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>各々の人格を尊重し、平等に本人を傷つけないような声かけを心がけている。個人情報に関する話は、必要時以外はしないように気をつけている。</p>	
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めた納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>思いや希望を表せるよう話を聴いたり、誘導したり努力している。</p>	<p>「待つ介護」を心がけている。難聴者へは筆談などで、説明を行っている。</p>
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>自由に自分のペースで生活できるよう、その都度、その場面で日々のその人らしさが出せるように、強制しないように心がけている。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>月2回の移動美容車を利用したり、希望の美容室へ行かれる方もいる。外出やバスハイク時には、皆さんに化粧をすすめている。</p>	
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員も一緒に食事を取り、楽しい雰囲気での摂取できるよう声かけ等をしている。食事介助も行っているが、なるべく自分で食べて頂くよう声かけしている。配膳や片付け等も一緒に行っている。調理日には入居者の好みを、献立に取り入れていく。</p>	<p>各々に合わせて「できる事、できそうな事」を見極め声かけしていく。</p>
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>朝のモーニング、2回のおやつタイムには飲み物にも変化を持たせている。自由に飲めるお茶も準備しているし、手作りおやつも作っている。お酒、たばこは提供していないし、飲む方の入居者はいない。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンを把握し、チェック表を活用しながら、さりげない声かけ、介助をしている。プライバシーを尊重し、失禁時にはプライドを傷つけないよう支援を工夫している。朝、ラジオ体操時、腹部マッサージを取り入れた。安楽な排泄ができるよう夜間はP-トイレを準備している。		トイレ環境にも気を配っている。(高さ、物音、清潔感)。オムツ、尿とパットも、体調、昼、夜等で使い分けをしている。体調変化や表情などに注意を払い、スタッフ間の情報交換を行っている。
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	主に午後の入浴になっているが、その方のパターンに合ったタイミングで声かけ支援している。一緒に入浴準備を行い、スムーズな入浴が行えるように努めている。入浴中はしっかりとコミュニケーションを図り、楽しく入浴できるようにしている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は活動時間を作り、昼、夜のリズムが安定するように、心がけている。不眠時は話し相手になったりお茶等に誘い、気分が安定するよう支援する。気持ちよく安眠できるよう寝具や居室の照明等を整えている。夜間の水分補給も手軽にできるようお茶を準備している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の得意な事、好きな事などを把握して、調理の下ごしらえ、洗濯物たたみ、掃除、花植え、野菜植えなど、必要とされている事を感じて、張り合いが持てる支援をしている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の意向を取り入れながら、買物時にその人に応じた支払いの支援を行っている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	中庭での散策、行事への参加、ドライブ、散歩、買物などと支援している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	お盆等のお墓参りなど、家族の方々へ協力をお願いして、外出の機会を作っていたいっている。月1回のバスハイケも出来るだけ入居者の希望を取り入れている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、気兼ねなく利用できるよう支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	談話室や各個室で、気軽に過ごしていただけるよう配慮している。時に入居者の方が接待される場面もみられたりと、他の入居者やスタッフとも話し合えるような雰囲気作りをしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束せず、見守り等で対応している。言葉による拘束も気をつけている。重度期やむえず転倒防止にベッド柵を取りつける場合、本人、家族へ相談了解を得ている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠は行わず、夜間のみ施錠している。戸外に出られた時は一緒に散歩したり見守りをしている。一人ひとり症状、特徴をとらえ、日々、状態をしっかり把握し、自由な暮らしを支援している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	声かけ、見守りにて状態把握し、いつもスタッフの視界で確認できるよう配慮している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	見せない工夫を行い、危険防止に努めている。注意の必要な物品(薬、洗剤、刃物等)はスタッフルーム内の目の届かない場所へ保管している。調理やその他で刃物、ハサミ等を使用する際は、スタッフが必ず付き添い、安全確認を行っている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの行動や状態を把握し、緊急マニュアルを作成し、勉強会にも参加、定期的な訓練も参加している。		ヒヤリハット 緊急マニュアル、緊急時連絡網を作成、活用できるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアル作成し内容を理解し、勉強会にも参加している。		スタッフの知識、技術向上に努めている。時折訓練も行いたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	他施設合同、ホームの避難訓練を行っている。ホーム独自のマニュアルを作成し、掲示している。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	個々のリスク状況を常に把握しながら、配慮している。家族来訪時には現況や日々の暮らしぶりを伝え、意見や相談を受けやすいように工夫している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック状態観察で、異常の早期発見に努め、担当医や家族との連絡を密にして、必要に応じては外来受診をしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時、医師の指示を受け、薬の説明書に目を通している。受診記録ノートや体温表に受診内容、内服を記入し、服薬シートを利用しひと目で分かるように整理している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	チェック表を活用して排便コントロールに努めている。腹部マッサージ、水分補給、運動を適宜行っている。		バランスよい食事摂取ができるように、キザミ食、とろみをつけたり、義歯の補正などにも努めている。
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの援助促し、見守り、声かけを行い、義歯の方は毎晩ケースに保管。週1回は洗浄剤を使い、義歯洗浄を行っている。一人ひとりの口腔状態に応じて、支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用いて、状況把握できるよう努めている。病院の栄養科よりの献立によりバランスのとれた栄養摂取がなされており一日全体を把握している。		水分摂取は確保できるよう全スタッフで取り組んでいる。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを作成して、勉強会にも積極的に参加している。外出後の手洗い、うがいは実行している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、水回りの片付け、食器や調理器具など常に清潔を心がけ、乾燥機にかけたり日光消毒も行っている。調理前の手洗い、週一度の調理、おやつ作りと新鮮で安全な食材を使用している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	奥まった場所にある為、看板等でわかりやすいように工夫している。玄関まわりなど花を植えたり季節感を出して、あたたかな雰囲気工夫している。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花、写真、手作りのカレンダー等を飾り気軽に入れる雰囲気、家庭的な暖かさを心がけている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室にTVやソファを置き、自由に過ごせる場所としている。中庭も自由に散歩できるようベンチを置き、玄関にも椅子を置き、一人の時間を持てるよう工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用されていた家具、生活用品の持ち込みはまだ全体的に少ないが、自作の陶芸作品、写真、季節の花など暖かみを出す工夫をしている。		
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の清掃の時、窓を開け、換気に努めている。エアコンによるこまめな温度調節。入居者の状況や外気温に応じて、適切温度を心がけている。温度計、湿度計の設置をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーでクッション性のあるフローリングをしようしている。要所に手摺を設置し、自分だけで行動できるようにしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各個室、共用場所にはわかりやすい表記を掲げている。個室の目印など混乱を防ぐ工夫をしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように活かしている	中庭の散策がしやすいように、スロープを作り、手摺もあるので、洗濯、野菜作り、花作り、水まきなど入居者も参加でき、車椅子での移動も可能なので、一緒に参加、日光浴もできる。		

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に 1 回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、生き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の 2/3 くらいが	
		職員の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の 2/3 くらいが	
		家族等の 1/3 くらいが	
		ほとんどできていない	

【時に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

*毎週木曜日に陶芸教室を行っており、年に一回、陶芸作品展を開いている。グループホームの周りには、田畑が多く、入居者の方々ものんびりとした生活を送る事が出来る。隣接する医療機関及び、介護サービス事業所と連携のとれたサービスを提供しています。